

千葉市感染症発生動向調査情報

2018年 第46週 (11/12-11/18) の発生は？

1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数		46週	45週	44週	43週
上段: 患者数 下段: 定点当たりの患者数	小児科	18	18	18	18
	眼科	5	4	5	5
	インフルエンザ*	28	28	28	28
	基幹定点	1	1	1	1

「定点当たりの患者数」とは
報告患者数/報告定点数。

定点	感 染 症 名	千 葉 市						千葉県
		注意報	11/12-11/18	11/5-11/11	10/29-11/4	10/22-10/28	11/5-11/11	
			46週	45週	44週	43週	45週	
小児科	RSウイルス感染症		2 0.11	2 0.11	1 0.06	2 0.11	39 0.29	
	咽頭結膜熱		1 0.06	1 0.06	3 0.17	1 0.06	60 0.44	
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	○	43 2.39	40 2.22	40 2.22	38 2.11	329 2.44	
	感染性胃腸炎		91 5.06	100 5.56	78 4.33	66 3.67	492 3.64	
	水痘		1 0.06	1 0.06	2 0.11	1 0.06	45 0.33	
	手足口病		14 0.78	16 0.89	27 1.50	30 1.67	133 0.99	
	伝染性紅斑	○	16 0.89	9 0.50	9 0.50	17 0.94	118 0.87	
	突発性発しん		10 0.56	9 0.50	8 0.44	6 0.33	56 0.41	
	ヘルパンギーナ		3 0.17	4 0.22	1 0.06	5 0.28	34 0.25	
	流行性耳下腺炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 0.06	15 0.11	
	インフル		4 0.14	6 0.21	5 0.18	10 0.36	100 0.47	
眼科	急性出血性結膜炎		0 0.00	1 0.25	0 0.00	0 0.00	1 0.03	
	流行性角結膜炎		2 0.40	8 2.00	7 1.40	13 2.60	34 1.00	
基幹定点	細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	
	無菌性髄膜炎		1 1.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	2 0.22	
	マイコプラズマ肺炎		1 1.00	1 1.00	0 0.00	0 0.00	8 0.89	
	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	

★★:流行中 ★:やや流行中 ◎:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

2 全数報告対象疾患(11件)

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	男性	70歳代	胸水ADA値の上昇	後天性免疫不全症候群	男性	20歳代	血清抗体の検出等
結核	女性	90歳代	病原体の分離・同定等	百日咳	男性	10歳未満	病原体遺伝子の検出
腸管出血性大腸菌感染症	女性	40歳代	病原体の分離・同定及びベロ毒素の確認	百日咳	男性	10歳代	病原体遺伝子の検出
E型肝炎	女性	20歳代	血清IgA抗体の検出	百日咳	男性	30歳代	抗体の検出
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	男性	70歳代	細菌の分離・同定、薬剤耐性の確認及び起因菌の判定	風しん	男性	20歳代	病原体遺伝子の検出
				風しん	男性	40歳代	病原体遺伝子等の検出
				-	-	-	-

・第46週は、結核2件(153)、腸管出血性大腸菌感染症1件(22)、E型肝炎1件(6)、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症1件(17)、後天性免疫不全症候群1件(3)、百日咳3件(198)、風しん2件(79)の報告があった。

※ ()内は2018年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

定点当たり報告数 第46週のコメント

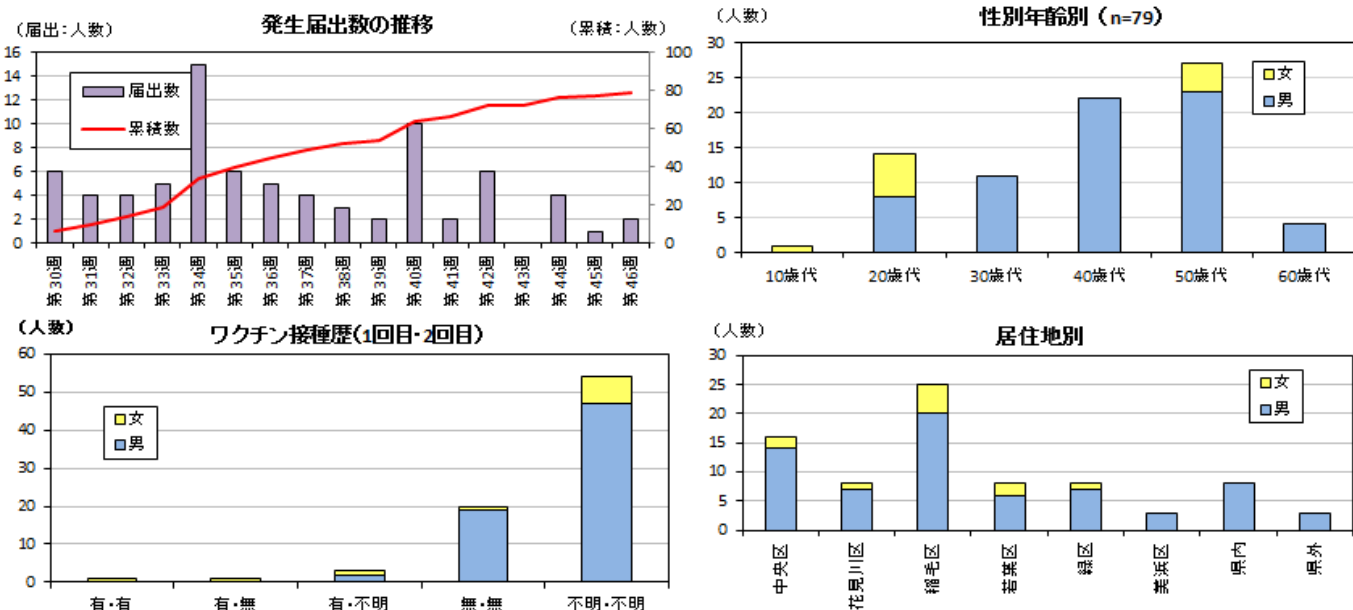
＜A群溶血性レンサ球菌咽頭炎＞前週より増加し2.39となった。過去10年の同時期と比べると多め。例年の発生動向によると、年末にかけて増加する傾向が高い。

＜伝染性紅斑＞前週より増加し0.89となった。過去10年の同時期と比べると最多。

■ トピック ■

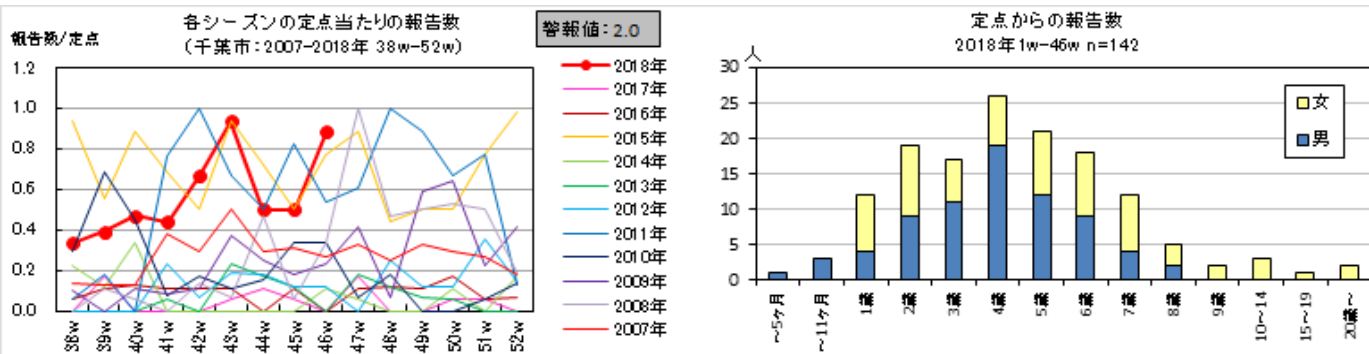
<風しん>

全国レベルの第45週の累積報告数は2032件で、昨年の同時期と比べると25倍を上回っています。都道府県別では東京都、千葉県、神奈川県の前で多く報告されており、関東地域で多く発生しています。千葉市の第46週は2件の発生報告があり、2018年の累計は79件となっています。性別は男性が86.1% (68名)、女性が13.9% (11名) で、年齢階級別は、50歳代 (34.2%:27名)、40歳代 (27.8%:22名)、20歳代 (17.7%:14名) の順で多く、40歳代~50歳代の男性が中心となっています。居住地別では、稲毛区 (31.6%:25名)、中央区 (20.3%:16名) の順に多くなっています。患者におけるワクチン接種歴は、無し又は不明が9割を超えています。



<伝染性紅斑>

全国レベルの第45週は、過去10年の同時期と比べると最多となっています。都道府県別では宮城県、新潟県、東京都の前で多く報告されています。千葉県は全国レベルと比べるとやや多めとなっています。千葉市の第46週は前週より増加し0.89となり、過去10年の同時期と比べると最多となりました。区別の発生状況は稲毛区 (3.33/定点) で流行発生警報開始基準値 (2.0/定点) を上回り最多で、同区の4歳で最も多く発生報告がありました。2018年第1週から第46週の累積報告数は142件で、性別では男性が52.1% (74名)、女性が47.9% (68名) で、年齢階級別では4歳 (18.3%:26名)、5歳 (14.8%:21名)、2歳 (13.4%:19名) の順で多くなっています。



<A群溶血性レンサ球菌咽頭炎>

全国レベルの第45週は、過去10年の同時期と比べると最多となっています。都道府県別では鳥取県、山口県、福岡県の順で多く報告されています。千葉県は全国レベルと比べるとほぼ平均レベルとなっています。千葉市の第45週は前週より増加し2.39となりました。過去10年の同時期と比べると多めとなっています。例年の発生動向では、年末にかけて増加する傾向があります。区別の発生状況は緑区 (4.5/定点) で最多で、同区の1歳、2歳、4歳及び5歳で比較的多く発生報告がありました。今シーズンである2018年第36週から第46週の累積報告数は331件で、性別では男性が52.6% (174名)、女性が47.4% (157名) で、年齢階級別では4歳 (19.6%:65名)、5歳 (14.8%:49名)、6歳 (13.0%:43名) の順で多くなっています。

